

EUIJ 公開講演会 国際基督教大学

マリオ・テロ教授「統合欧州の構想 過去、現在、未来」

国際基督教大学社会科学科 2年

大西 彩乃

2006年10月26日、ブラッセル自由大学教授欧州研究所学長のマリオ・テロ教授が国際基督教大学を訪れ、公開公演を行った。講演会はICUのみならず他大学からも聴衆を集め、盛況の内に開催された。今回の公演は、歴史的背景も踏まえ、統合欧州の現状や展望についての知識を深めるものであった。

「統合欧州の構想 過去、現在、未来」と題されたこの公演では、欧州石炭鉄鋼共同体が発足する以前からの欧州統合の歴史的背景や思想、「欧州合衆国」とアメリカ合衆国との相違や連邦と国家連合の概念、また、欧州憲法条約の現状、今日のグローバリゼーションの中における地域協力の試みや新しいマルチテラリズムを体現するEUについて討論された。テロ教授は中でも以下の三点について特に強調された。第一に、テロ教授はカントやモンテスキュー、また、ハミルトンやユゴーの思想を引用し、各々の思想の比較、分析を通して、欧州統合に政治思想が与えた影響について言及された。第二に、連邦と国家連合の相違について議論された。今日のEUは形成過程の連邦国家や伝統的な国家連合よりも、国家による連邦としての特徴が強いと示すと同時に、憲法条約等の現状にみられる国家連合主義と連邦主義について言及された。また、第三にテロ教授はグローバル化の進む世界において、EUが地域の平和と協力の推進を促進する重要性について指摘された。近隣諸国との関係の強化のみならず、京都議定書での日本との先導的役割に見られるようなグローバル・アクターとしての役割や立場の強化の重要性についても言及された。